

2 実践事例（8）

鶴岡市立温海中学校

研究の目的

次期学習指導要領では、これからは、「予測できない未来」が到来するため、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、生涯にわたって能動的に学び続けることが大切であるという指針が示されている。そのために、探究型学習が求められている。探究型学習とは、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」と定義されている。これを受けて、本校では、以下に示す3つの視点において、探究型学習を推進していこうと考えている。

この3つの視点のうち、②ICT機器を使った授業改善においては、本校が目指す生徒

- ①生徒の主体性を引き出すための課題設定と振り返り
- ②ICT機器を使った授業改善
- ③学び合いを中核としたグループワークの工夫

像、「主体的な学びができる生徒」「自分の考えをまとめ表現できる生徒」「心豊かにかかわり合う生徒」を実現し、主体的・協働的な学びになるようにICT機器を授業の中に積極的に取り入れ、理解しやすい授業改善につなげていこうと考えている。また、あわせて、教員がICT機器を授業で利活用する為に、校内研修を通して教員のICT活用能力も育成していきたいと考えている。

実践紹介

特定の教科等において、より効率的・効果的な活用例

【国語】

【知識・技能を育成する場面】

- ・インターネットを使った故事成語の調べ学習が効果的だった。
- ・文法・漢字の学習でICT活用によって、定着、確認を効率よく行えた。

【社会】

【学びに向かう力・人間性を育成する場面】

- ・教科書の用語をYouTube等で検索し、動画を視聴することで、生徒の興味をより深いものにできた。

【数学】

【知識・技能を育成する場面】

- ・「空間図形が平面図形を移動させたもの」ということを視覚的に捉えさせる場面で、デジタル教科書を活用することで、生徒の理解をより深めることができた。

【理科】

【思考力・表現力・判断力を育成する場面】

- ・タブレットで、天気図に色を塗る活動が、表現力や判断力の育成につながり、効果的であった。

【学びに向かう力・人間性を育成する場面】

- ・光・力・音の作図や金属を特定する実験の説明で拡大提示することで、生徒が積極的に取り組めるようになり、班での話し合いも活発になった。

【英語】

【思考力・判断力・表現力を育成する場面】

- ・iPadで対話を録画し、全体で共有することで、生徒の英語での表現の幅を広げることができた。

【限られた時間を効率的に運用する場面】

- ・iPadの時計アプリを活用することにより、すぐに世界の各都市の時刻をリアルタイムで話題にし、時刻についてのペアによる対話活動ができた。

【音楽】

【知識・技能を育成する場面】

- ・ICT機器を活用することで、音程とリズムを、色やキャラクターで示すことができ、見えない音の関係を視覚的に焦点化して提示することができ、歌唱技能向上につながった。



【美術】

【知識・理解を育成する場面】

- ・実物投影機でグラデーションやスパッタリングなどの技法をテレビで見せることにより、生徒が技法の理解をさらに深めることができた。

【保健体育】

【知識・技能を育成する場面】

- ・iPadの動画撮影機能で、自身や他者の動きを観察し、効果的に即時のフィードバックを行うことができた。また、技能の上達の過程を動画で蓄積することにより、比較し、改善につなげることができた。

【技術・家庭】

【知識・技能を育成する場面】

- ・木工の切断の作業映像をTVに映しながら説明すると、教師が実際に作業しているところを見せるより、全員が一斉に見やすい角度で見ることができ、理解が深まった。

【道徳】

- ・iPadで一人一人の意見が分かたり、共有したりできたので、意見交換がスムーズにでき、道徳的価値の理解をより深めることができた。



教科等によらない汎用的な活用例

【一斉学習】

- ・これまで板書していた「学習課題」をテレビ画面に映し出すことで、時間短縮、空いた分の黒板の有効活用、50分間提示し続けることで授業の最後に再度確認することができた。
- ・iPadを使うことで生徒の意欲が向上し、学習内容を視覚化することで、学習に取り組みやすくなった。

【個別学習】

- ・学習のまとめのレポートを提出する際、写真に撮ってすぐに送ることができたので効率が良かった。
- ・1つの質問に対して、一人一人の意見をスクリーンで反映できるため、自分の考えを仲間に伝えたいという意欲が高まり、表現力を育成することにもつながった。

【協働学習】

- ・生徒のそれぞれの表現を比較し、話し合う活動がICTを活用することで、スムーズに行うことができ、思考の深まりにつなげることができた。
- ・グループ課題として取り組ませる場合にも、自身で書いたものを転送、互いの意見を共有しながら、グループの意見としてまとめ上げ、クラス全体に提示することができた。

成果・次年度に向けて

【成果】

- ・6月と12月のICT活用アンケートの結果を見ると、「生徒がiPadを活用した授業を行った」の項目が6%→66.7%、「教師の授業におけるiPad活用」の項目が26.7%→73.3%とどちらも割合が増えており、教師、生徒ともに授業におけるICT利活用が推進され、授業改善につなげることができた。
- ・株式会社LoiLoからの研修会、先進校のICT活用実践発表研修会、定例職員会議後の10分程度の「ちょこっと研修会」などを開催することで、教職員のICT活用能力を高めることができた。
- ・ICT機器を授業で利活用することで、学びが主体的になり、考えを共有しやすくなったことで生徒同士のかかわりが増え、生徒に身につけさせたい資質・能力の育成により近づけることができた。

【次年度へ向けて】

- ・授業でICTを活用する場面をさらに増やし、各教科での重点単元の設定、各教科で学んだことをいかした課題解決型学習の推進など、カリキュラム・マネジメントを意識した学校研究を進めていきたい。
- ・今年度、1人1台端末が整備されたので、次年度からは、もっと生徒がICTを授業で活用する場面を増やし、身につけさせたい資質・能力の育成にさらに近づけていきたい。
- ・教職員と生徒にとって、「なぜ、ICT機器を活用した方が深い学びになるのか？」ということが、今年度よりもさらに明確になるように、実践を積み重ねていきたい。